

上巻 目次

口 絵

発刊のことば

凡 例

第一編 位置と自然

第一章 本邦中央高地南縁の位置…………… 3

第一節 数理的位置…………… 3

第二節 県南の海のない村…………… 4

第三節 本県における南玄関の村…………… 6

第二章 断層と若返りの壮年地形…………… 9

第一節 伊那盆地の地形上の特色…………… 9

第二節 阿智村の地形…………… 13

一 阿智村の地形区分…………… 13

二 阿智村の高地…………… 15

1 神坂山地

2 梨子野・網掛山地

3 七本松・日ノ入山地

4 南部山地

三 阿智村の低地 19

1 戸沢・本谷・園原・横川の谷

2 小野川・昼神の盆地

3 駒場盆地

第三章 花崗岩の山々からなる阿智村の地質 27

第一節 下伊那の地質の概要 27

第二節 阿智村の地質 30

一 基盤岩類の状況 31

1 濃飛流紋岩

(1) 戸沢層

(2) 角礫岩層 I (角礫岩)

(3) 黒井沢溶結凝灰岩

(4) 一の沢溶結凝灰岩

(5) 角礫岩層 II

(6) 恵那山溶結凝灰岩

(7) 富士見台溶結凝灰岩

(8) 南沢溶結凝灰岩

(9) 花崗斑岩

2 後濃飛花崗岩類

(1) 市田・清内路花崗岩

(2) 伊奈川・澄川花崗岩

3 塩基性岩類

(1) 変輝緑岩類

4 領家片麻岩類

(1) 珪質ホルンフェルス

付 恵那山トンネルから見た地質

二 被覆層の状況 39

1 第三紀層

2 伊那層群

(1) 久米・親田礫層

(2) 寺尾層

3 段丘礫層

(1) 高位段丘・古期扇状地

(2) 中段段丘・中期扇状地

(3) 低位段丘 I・新时期扇状地

(4) 低位段丘 II

付 1 阿智村の鉱山

2 昼神温泉

第四章 気象	46
--------	----

第一節 気候の概況	46
-----------	----

第二節 気温	46
--------	----

第三節 降水量	48
---------	----

第四節 風	51
-------	----

第五節 日照と湿度	52
-----------	----

第六節 季節の気象現象	53
-------------	----

一 雪	53
-----	----

一 霧	55
-----	----

三 霜	55
-----	----

第二編 原始・考古

第一章 原始時代	59
----------	----

第一節 人類の発祥——旧石器時代——	59
--------------------	----

一 原始時代のあらまし	59
-------------	----

二 阿智の旧石器時代	62
------------	----

第二節 狩猟・魚撈・採集の展開——縄文時代——	62
-------------------------	----

一 縄文文化の起源	62
-----------	----

二 縄文文化の諸段階	63
------------	----

1 縄文時代早期	
----------	--

2 縄文時代前期	
----------	--

3 縄文時代中期	
----------	--

4 縄文時代後期	
----------	--

5 縄文時代晚期	
----------	--

三 生産・生活用具	67
-----------	----

1 土器
2 石器

尖頭器 有舌尖頭器 石鏃 石錘 石皿 磨石・
敲石 打製石斧 磨製石斧 搔器 削器 石錐
凹石 砥石 石匙 袂状耳飾 勾玉 石棒 石
劍 石刀 独鈷石

四 狩猟・漁撈と採集……………73
五 住まいと集落……………75

1 竪穴住居のくらし
2 縄文時代の集落

六 呪術の社会……………77

1 土偶のまつり
2 石棒のまつり

七 墓地と葬礼……………80
八 原始農耕の発生……………80

第三節 農耕社会の展開——弥生時代——……………82

一 縄文文化から弥生文化へ……………82

1 激動の時代
2 弥生文化の特性

二 新しい生産技術の展開……………85

1 稲作の伝来

2 金属器の伝来

三 農耕とその技術……………87

1 稲作

2 畑作

第二章 阿智村の遺跡……………91

第一節 会地区の遺跡……………102

一 七久里遺跡

三 前原遺跡

五 湯川沢遺跡

七 池の平遺跡

九 下原遺跡

二 向田遺跡

三 京田遺跡

五 中関遺跡

七 かぶき畑遺跡

九 清坂遺跡

二 権現原遺跡

四 的場遺跡

六 中原遺跡

八 鞍掛山遺跡

〇 山の神遺跡

三 京田原遺跡

四 内垣外遺跡

六 桜原遺跡

八 宮の脇遺跡

〇 木戸脇遺跡

第二節 伍和地区の遺跡

- 三 上御堂遺跡
- 三 古城遺跡
- 三 おち遺跡
- 七 要ヶ洞遺跡
- 元 えきの平遺跡
- 三 三本木遺跡
- 一 小山入遺跡
- 三 大久保遺跡
- 五 寺下遺跡
- 七 池ヶ窪遺跡
- 九 クリヤマ遺跡
- 二 日ノ入遺跡
- 三 大鹿遺跡
- 三 アレ田遺跡
- 七 新田山遺跡
- 元 寺尾遺跡
- 三 中尾遺跡
- 三 五反田遺跡
- 四 日向畑遺跡
- 六 源正平遺跡
- 六 駒場中平遺跡
- 三 曾山遺跡
- 三 梨子野遺跡
- 二 坂本遺跡
- 四 大久保下遺跡
- 六 浜井場遺跡
- 八 ワケ畑遺跡
- 二 上相沢遺跡
- 三 カヤハラ遺跡
- 四 塚本遺跡
- 六 餅倉遺跡
- 六 寺尾原遺跡
- 三 原遺跡
- 三 七右衛門ムクリ遺跡

129

第三節 智里東地区の遺跡

- 三 おばけ原遺跡
- 五 宮の前遺跡
- 七 梨畑遺跡
- 元 切餅遺跡
- 三 細窪遺跡
- 三 備中原遺跡
- 一 兔平遺跡
- 三 阿智神社北遺跡
- 五 阿智神社前遺跡
- 七 二本松遺跡
- 九 橋場遺跡
- 二 根木屋遺跡
- 三 南遺跡
- 五 さがり遺跡
- 七 イモウ遺跡
- 元 杉ヶ洞遺跡
- 二 古畑遺跡
- 三 赤坂遺跡
- 二 平林遺跡
- 六 栗矢遺跡
- 六 桐原遺跡
- 三 丸山遺跡
- 三 新田遺跡
- 四 宮ノ前遺跡
- 二 中平遺跡
- 四 高木遺跡
- 六 昼神前田遺跡
- 八 庄ヶ原遺跡
- 二 北垣外遺跡
- 三 森下遺跡
- 四 平林遺跡
- 六 寺沢遺跡
- 六 中原遺跡
- 三 中ツルネ遺跡
- 三 川端遺跡
- 四 若林遺跡

142

三 大平遺跡

三 鬼ヶ久保遺跡

三 網掛峠遺跡

三 藤ノ戸遺跡

三 奥根木原遺跡

三 長平遺跡

三 梅ヶ久保遺跡

三 牧ヶ平遺跡

三 大野向山遺跡

三 大沢遺跡

三 棚原遺跡

三 稲葉遺跡

三 大垣外遺跡

三 北沢遺跡

三 葛蒲平遺跡

三 前田遺跡

三 宮ノ越遺跡

三 草刈場遺跡

三 むかい遺跡

三 長塚原遺跡

三 原の平遺跡

三 矢平Ⅰ・Ⅱ遺跡

第四節 智里西地区の遺跡

一 浪人松遺跡

三 ホド平遺跡

五 児の宮遺跡

七 クラガリ沢遺跡

九 葛蒲平遺跡

二 長者屋敷A遺跡

三 下瀬河原遺跡

二 かったい洞遺跡

四 まきたち遺跡

六 マサゴヤ遺跡

八 薬師平遺跡

二 上の平遺跡

三 長者屋敷B遺跡

四 サブゴヤ遺跡

五 下の原遺跡

二七 濃間上ノオ山遺跡

二九 上野平遺跡

六 濃間遺跡

八 外濃間遺跡

三〇 向平遺跡

第三章 古墳時代以降——神坂峠と周辺遺跡——

はじめに

一 本章の範囲と内容

二 資料の扱い

第一節 神坂峠

一 神坂峠の調査

1 神坂峠の研究小史

2 神坂峠遺跡発掘調査

(1) 調査主体と目的

(2) 調査状況

3 遺構と遺物

二 総括

第二節 神坂峠東麓の遺跡群

一 峠以東道中の遺物分布地

第三編 古代・中世

<p>1 神坂峠東遺跡</p> <p>2 万岳荘遺跡</p> <p>3 千本立遺跡</p> <p>4 池の平遺跡</p> <p>5 悪沢上遺跡</p> <p>6 悪沢遺跡</p> <p>7 そぶ沢遺跡</p> <p>8 いわがしや遺跡</p> <p>9 井尻割遺跡</p> <p>10 第二洞遺跡</p> <p>二 園原の遺跡群——杉の木平——</p> <p>1 杉の木平遺跡の位置と自然</p> <p>2 杉の木平にみられる遺構と遺物</p> <p>3 杉の木平遺跡の性格</p>	<p>第三節 網掛峠と小野川遺跡群</p> <p>一 園原から小野川</p> <p>二 小野川遺跡群の性格</p> <p>第四節 阿知駅家周辺の遺跡群</p> <p>一 駅家周辺の歴史的背景</p> <p>二 駅家考証にかかわる若干の課題</p> <p>第五節 神坂峠西麓の遺跡群</p> <p>第六節 神坂峠とその歴史</p>
210	224

<p>序章 地方史の立場・時代区分</p> <p>一 地方史と中央史</p> <p>二 時代区分</p>	<p>第一章 古代</p> <p>第一節 古代概説</p> <p>一 政治体制</p>
265	267

地方組織 貢租—租・庸・調・徭役等

正倉院御物、信濃の調庸布

二 民衆の生活……………271

農業その他の産業

三 身分制度……………273

貴族 公民 雑色 賤民 奴婢

第二節 古代の阿智……………274

一 条里制遺跡……………274

条里制 駒場、関田の条里遺跡 下伊那郡内のその

他の条里遺跡

二 官道東山道……………281

1 東山道の概略

記紀に記された信濃坂(神坂峠)延喜式の官道

と東山道 東山道の路線と駅次の大要 阿智駅

及び付近の道筋

2 坂本駅から神坂峠まで

廣濟院跡

3 神坂峠から阿智駅まで

神坂神社 帚木・朝日松金鶏跡・姿見池・義経

駒繋ぎの桜 園原薬師堂 長者屋敷・伏屋長者

伝説 蛇瘤杉伝説 網掛峠から駒場 熊谷直一翁

の神坂古道復興と古跡保存事業 神坂路の文学

付記

4 阿智駅

阿智(阿智)の語源 あふちの関 阿智駅の位

置 駅の構成運営

5 阿智駅から育良駅まで

通過地に関する諸説 第一説中通り線 第二説

下手線 第三説上手線 考察 育良駅の所在

に関する諸説

三 神社……………318

1 阿智神社

前宮 奥宮 阿智神社初期の社地

阿智系の神を祀る神社 山王権現と阿智神社

東嶺和尚と吾道宮縁由

2 安布知神社

四 仏寺……………330

観照・長岳両寺

第三節 荘園制の發展と武士の發生……………333

莊園の發展と律令國家の頽廢 名主・武士の發

生 伊那郡の莊園 伊賀良庄

第二章 中世……………338

第一節 概説……………338

一 鎌倉時代……………338

二 南北朝と室町時代……………339

貨幣流通の拡大と商工業の發達

三 兵農分離の方向へ……………341

農業技術

第二節 中世の伊那郡・阿智……………343

一 伊那郡に興起した武士たち……………343

諏訪氏(神氏)と金刺氏の系統 南信濃源氏

(伊那源氏) 伊賀良庄地頭

二 鎌倉時代の阿智・下伊那の交通……………344

阿智を中心とする交通路 曾山の四日市場

(1)鳩ヶ嶺八幡宮 (2)開善寺 (3)文永寺 石造

五輪塔・石室 (4)法全寺

第三節 南北朝・室町期の下伊那……………349

一 下伊那の武士たち……………349

小笠原氏 大塔の戦 結城合戦 信濃宮宗良親

王 浪合宮尹良親王 下条氏 関氏 知久氏

その他の諸族

第四節 戦国期、織田・豊臣期の伊那郡……………359

一 武田氏の伊那郡侵略……………360

二 織田軍の侵入……………363

三 徳川氏の伊那郡支配……………364

四 武田・織田・徳川の支配形態……………365

貫高と石高

第五節 戦国期、織田・徳川期の阿智……………369

第四編 近世

はじめに……………377

第一章 支配領主たち……………378

第一節 豊臣時代……………378

毛利秀頼 京極高知

第二節 徳川時代初期……………379

一 郡下の情勢……………379

二 阿智地域の領主……………380

1 向関宮崎氏

2 上町宮崎氏

3 馬場宮崎氏（下町宮崎氏）

4 中関領主宮崎氏

5 中関宮崎氏

6 市岡氏

7 沢氏

8 近藤氏

第三節 徳川中期以後の変遷……………402

第二章 土地制度—検地—……………406

第一節 土地制度の変化（中世から近世へ）……………406

第二節 秀吉の検地（天正の太閤検地）……………408

第三節 正保二年の村高……………409

第四節 延宝・宝永期の検地帳……………410

駒場村下町の検地帳 寺社領について 中関村

の検地 川に流された河内村 上中関村、榑木

成り分検地帳 検地帳のない村々

第五節 新田検地その他……………428

新田検地 小野川村の新田開発 園原新田の

開発 丸山部落の開発 荒地成り・起返り畑田
・田畑成り等

第三章 貢 租……………443

第一節 初期宮崎氏領の年貢……………443

第二節 幕府直轄領（天領）の年貢……………447

榑木成りの村 榑木成りから金納へ 金納年代
の年貢 小物成・運上金 年貢取り率（取り箇）
の年貢 各百姓持地・年貢高混乱―駒場村の
場合 向関村の場合―名主不信の訴えに発展
駒場・中関村の年貢 八軒屋敷の年貢

第三節 近藤氏の年貢……………464

第四節 幕府への貢租……………470

第五節 木曾伝馬の助郷役……………472

助郷の意味 助郷免除の訴え 助郷村の変
遷 助郷役勤めの実状 幕末の大通行と助郷
役拒否の動き

第四章 村民の構成と支配組織……………488

第一節 村貫ぎと夫役……………488

一 村貫ぎ（村入用）……………488

二 夫役（村役）……………495

第二節 お触……………497

第三節 村定め……………506

第四節 村方三役と五人組……………514

一 初期の形……………514

二 村役人の決め方……………516

中関村 河内村 向関新領の村方騒動 駒場・小
野川村の村役人選び 枝村の村役人 上中関村
大鹿倉村 備中原村 栗矢村

三 村役人の給料……………534

四 五人組……………536

五人組の意味 五人組の家数 五人組の連帯と規
制 村役人株の売買

第五節 農民階層の分化変動……………541

——農民の零細化——……………541

新百姓

第六節 古い体制の名残り——お館被官制——

545

一 土着武士の後裔……………545

二 中関村に見る古い家の形態……………545

三 昼神村のお館・被官制度……………546

四 向関村の被官解放文書……………548

五 上中関村の被官資料……………549

第七節 借地・借家人……………551

第八節 年季奉公人……………553

第九節 戸数・人口・家族構成……………555

一 戸口史料……………555

1 宗門人別改帳（宗門帳）……………555

2 人馬家数改帳・村明細書上帳……………555

3 借家人別改帳……………555

二 各村の戸数・人口……………570

三 家族構成・年齢構造……………579

1 家族構成……………579

2 年齢構造……………579

四 住民の移動……………584

1 婚姻・離婚……………584

2 婚姻圏

3 その他の移動

厄介 欠落 勘当 開発移住

第五章 水利……………594

はじめに……………594

第一節 駒場村の水利……………594

岩の沢の懸渡樋 桜原の溜池 駒場大井の開さ

く 曾山部落の水利……………594

第二節 上中関と中関の水論……………612

前原の溜池と線香水 その他の溜池や沢水……………612

第三節 伍和地区の水利……………620

一 向関村の水利……………620

知久保井 郷左井 その他の井水……………620

二 日の入用水（備中原井）……………622

元文井—丸山の水利……………622

三 南沢井……………634

南沢新田井 南沢栗矢大井—寺尾との水論……………634

四 中尾井……………639

第四節 まとめ 640

第六章 山林 642

はじめに 642

第一節 御林 付、山手運上山 642

一 野熊山御林 642

山手運山上―荒床山・弓之又山

二 城山御林 642

三 河内山（日の入山） 658

木地屋の入山 御林の解消

第二節 百姓入会山 667

まえがき 667

一 日の入山 668

山の口 用材採取の規定 草場入会論 御林復

活の動き

二 知久保山論―向関村と駒場村 677

茶ヶ外山につき向関・大鹿倉両村の協定

三 大野山入会 682

四 梨子野山 684

五 大平山・真名板倉山 687

六 鷲ヶ巣山（立石山） 690

七 川入昼神山 692

八 小野川村大沢山（老平山） 694

九 下切山 697

〇 升ガ沢山（増ノ沢山） 698

二 本沢山 700

三 高野板山 702

三 横川山 704

第三節 百姓個人持山（私有林） 710

第七章 産業 713

第一節 農業 713

一 普通作 713

二 商品作物 715

煙草 干し柿 養蚕 その他

第二節 手工業 722

紙すき 酒造業 水車稼ぎ その他の手工業

第三節 駒場村の商工業 729

第四節 農村の金融……………731

一 田畑譲渡しと質地借用……………731

裏判帳による考察

二 無尽講……………738

三 質屋……………740

第五節 地主小作制の発達……………741

領主より遙かに多い地主取り分 領主・地主・

小作の取り分割合

第八章 交通……………745

第一節 伊那街道……………745

第二節 中馬（ちゅうま）……………746

一 中馬の発達・宿場との争い……………746

二 三州馬の進出・中馬との争い……………753

三 天竜川通船と中馬……………755

第三節 駒場宿……………756

中馬・庶民の宿場 伝馬宿としての駒場 高須

藩御用米の継送り

第四節 庶民の旅……………760

神社巡拜の旅 上層農民の旅

第五節 小野川関所……………765

小野川関所

第六節 下条街道と元橋出入……………768

第九章 凶作飢饉と貯穀……………774

第一節 享保の凶作……………774

第二節 天明の飢饉……………777

第三節 天保の飢饉……………781

無尽講の停止

第四節 備荒貯穀……………787

中関村の貯穀 駒場村の貯穀 近藤氏領村の場

合

第十章 明治維新と農村……………796

第一節 旗本近藤藩の財政窮迫……………796

御用金 藩営の無尽講

第二節 黒船渡来とその影響……………801

異国船渡来とその対策の御触 軍備強化と献

金 兵賦差出し

第三節 水戸浪士軍の通行 805

第四節 長州征伐と郷夫出動 809

第五節 米価高騰と世直し一揆 813

米価の高騰 騒動の経過 騒動後の処罰と

名藩の対応 騒動の背景 お札降りと「ええ

じゃないか」

第六節 維新直後の金融混乱と二分金騒動 824

付 編 古文学抄録

一 序言 859

二 古事記・日本書紀 861

三 万葉集 861

四 平安期以降の詩歌 863

悪質新金と金札の発行 飯田藩の二分金騒

動 伊那県の二分金回収 信州の二分金騒

動 県・藩札の製造流通 諸民の困窮

第十一章 寺子屋教育 833

第一節 寺子屋 833

寺子式目

第二節 寺子屋師匠の事績(四十二名) 836

五 古書 881

六 謡曲・長唄 888

七 その原紀行 898

八 碑文 908